

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	おうちだ（放課後等デイサービス）		公表日		R8 年 3月 16日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	4	・バリアフリーである程度動線が確保しやすい環境である。 ・マットと机の配置を工夫して支援を実施している。 ・バギーなどを廊下に移動させ、空間を広げている。 ・2階の多目的ホールやスヌーズレンルームを活用している。	制度的には問題ないが、車椅子やバギーのお子さんが多いため狭く感じる。 ・少ない定員ではあるが、中学生以上の児が多いため教室自体が狭いと感じる。 ・曜日によって利用児が変わる関係でマット上で布団を敷いて過ごす児、動きが多い児などが重なった時などは空間が狭く危険度が高くなるなど思う。 ・マット上で遊んでいる児と臥床している児がいると狭く、踏まれるなどの危険ある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1	・事前の利用確認と職員の配置の確認（出勤）を徹底している。 ・基本的にはマンツーマンで対応しており、危険がないようにしている。	・職員の急な欠勤などがあっても通常の運営は行えているが、ご利用児の急変や自然災害など緊急の場合の対応が難しい場面も生じる可能性がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	・マットで区切り、分かりやすくしている。 お子さんが移動しやすいように設定している。 ・遊びや休息の場と、活動や課題の場を構造化している。 ・構造化ができない状況の場合は、パーティションを活用し仕切っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	・毎日の掃除など徹底している。活動に合わせてバギーや車椅子などの配置も工夫している。 ・常に衛生面は意識され対応している。	・稀におもちゃがごちゃごちゃになっていて危ないことがある。 ・事業所にネズミが出るため、ネズミ捕りを設置している。 ・室内に出ている物が多く、清潔感に欠けている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	・使用出来る部屋は限られているが、必要に応じて使用出来る環境になっている。 ・静養室や相談室、スヌーズレン、通所共有の部屋を活用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	・毎日の朝礼と振り返りで、全体で取り組むことができている。 ・職員会議や朝礼で適宜実施している。 ・職員間で問題提起、解決策を考えて行動できている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・必要に応じて実施している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・全体での話し合いや、個別の面談なども含めて機会が多く設けている。 ・みんなに意見を求めて、改善策を考えている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	・第三者評価はR5年度に実施している。その後は結果をもとに業務改善している。	・今年度は未実施である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	・法人内外の研修案内をしている。また、事業所内での研修も実施し勉強している。	・申し出れば受講はできるものの、法人内で発信があるものは夕方に研修開催のものが多く、参加したくても参加しにくい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	・プログラムに対してどのような支援を行いどのような結果があったかなどの共有を細かく行っている。	

適切な支援の提供	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	・職員間で適宜、ご利用児のアセスメントや様子、課題遂行の結果を共有している。担当職員だけでなく事業所内でも定期的に相談しながら計画を作成している。保護者への聞き取りも行い、保護者やご利用児のご意向も反映されている。 ・職員全体でアセスメントしており、懇談を通して児や家族のニーズの聞き取りを行っている。それらをふまえて職員全体で客観的意見を出し合い決定している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	・他職種間で意見交換をしながら行っている。 ・原案会議でみんなで話し合い、最善・最適な支援計画になるように考えている	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	・都度共有している。計画から逸れていないか、職員間で確認し合っている。 ・計画開始に周知し、日々の振り返りの中で進捗状況を共有している。 ・日々の振り返りで支援内容を共有することができ、次の課題へつなげることができている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	・非重心のお子さんに対しては、太田stageやNCプログラム等の標準化されたツールを使用している。重心のお子さんに対しては、インフォーマルなアセスメントが多い。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	・他職種間で意見交換をしながら決定している。また、保護者のご意向やご利用児のご意向も反映している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	・新年度に保育士を中心に年間活動計画を立案し、月案は担当の保育士・理学療法士を中心に立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	・ご利用児さんが季節を感じられ、楽しめるようにいつも工夫している。 ・毎月の職員会議で活動内容がどうだったか話したい、次年度に改善できるようにしている。	・「去年と同じ活動」とご利用児さんから意見があるため、子どもたちが楽しんでいる活動でも変化を取り入れる必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	・ご利用児の状況や様子に応じて臨機応変に対応できるように努力している。保護者への説明や相談もその都度行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	・朝のミーティングで1日の流れを把握し、支援中は職員間で声をかけ合って支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	・支援後または支援の次の日に振り返りを行い、情報を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	・日々の支援について記録し保護者とも共有している。職員間の振り返りも記録し、次の支援につながるよう改善している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	・担当職員だけでなく、職員全体でご利用児の様子を共有し合いながらモニタリングを実施している。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	0	・ご利用児一人一人に合わせた内容で検討・実施している。		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	・その都度、小さなことであってもご利用児自身で選択をする機会を設けている。 ・意思表示が難しい児もいるが、様々な方法で意思表示・自己決定が行えるように工夫して取り組んでいる。		

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	・最近の様子などを各職種から共有した上で、担当職員が参加している。 ・担当職員が参加していることに加えて、担当職員以外でも事前に全体でその児についての共有などがありよく現状を把握した上で参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	・リハビリや学校の見学を通して連携を行っている。場合によっては、支援方法を見直したり統一を図ったりしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	・学校の情報は、保護者にも下校時間を確認しながら、送迎を行っている。送迎時に学校にも伺い情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	4	・相談員が把握されている場合は、就学前に利用していた事業所などの情報を聞き取っている。	・就学前に利用していたところとはあまりやりとりをしていない。また就学前するタイミングで放デイを利用する児が少ない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	3	・必要に応じて実施している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	3	・児童発達支援センターや事業所と連携を図っている。管理栄養士、言語聴覚士など専門職に助言を求めることができる。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	5	・地域の公園や商業施設、公共機関などで活動することはある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	4	・管理者もしくは児童発達支援管理責任者が岡山市で開催される自立支援協議会のこども部会へ参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	・連絡帳において、文字や写真で様子を伝えている。課題や通常と異なる様子などは、お迎えの際に保護者に伝えている。急を要する場合は電話で伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	・外部で開催される研修などを案内している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	・全体説明会において説明している。	・丁寧な説明は出来ていない。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	・支援計画作成前に保護者面談し意向の確認をしている。一部のお子さんに対しては、聞き取りを行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	・計画を立案したり評価したりした場合は、保護者へ説明し同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	・保護者面談は定期的実施している。相談内容は、全職員で共有し必要に応じて対応を検討している。共通した適切な対応が取れるように努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6	3	・法人内の事業所や外部において、保護者同士が交流できる機会があれば、案内している。	・今年度は、事業所単位では実施できていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	・相談があったことをすぐに職員全体で共有している。対応方法などについても、意見交換が行われ、共通した対応を全体が把握できるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	・毎月、通信を発行し活動概要や行事予定を保護者へ伝えている。インスタグラムも発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	・常に意識している。	

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	・相手の状況に応じて対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	0	・事業所と同じ建物内において、地域住民や子どもクラブの方が利用できる環境を整えている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	・マニュアルに沿って訓練を実施している。	・職員間で、認識や理解にバラツキがある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	・BCPを策定し訓練などを行っている。	・職員間で、認識に理解にバラツキがある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	・利用前に確認し変更の都度、緊急時対応を見直している。毎日、朝の打ち合わせで発作時の対応、平熱体温、緊急搬送先を伝えている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	・食事支援開始前に、食物アレルギーのある方には医師の指示書を提出していただいている。	・稀に給食を配膳する前に、アレルギーが除去されていなかったり、食形態が違ったりすることがある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	・安全計画を作成し訓練や研修を行っている。	・必要に応じて見直し、職員間で再認識を合わせる必要がある。 ・職員間で、認識に理解にバラツキがある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	・全体説明会で周知している。	・丁寧に説明することが必要である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	・ヒヤリや事故があった場合は、事業所内で共有し、再発防止策をすぐに考え実施している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1	・職員間でも虐待・身体拘束の防止の観点から意見交換が適宜行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	・身体拘束については、組織的な話し合いを行い保護者に説明後、計画に沿って実施している。内容は、都度 保護者へ伝えている。	